

科目名	生活行為向上リハビリテーション論	担当教員	山田 恭平 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR33ABE	②、③、④					

科目概要	私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるもととなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援のあり方、評価ツールの使用法、支援の提案の仕方を学習する。
学習目標	① 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について理解する。 ② 生活行為向上マネジメントツールについて理解し、実践できるようになる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	生活行為向上マネジメントの背景と概要	オリエンテーション 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要	生活行為向上マネジメントの開発背景と概要を理解する。	
2	生活行為向上マネジメントの面接技法	生活行為目標を引き出す面接技法について	クライアントにインテークする際の技法について講義と演習を通して学び、体験する。	
3	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント	アセスメントシートの作り方について①	生活行為アセスメントシートの作成を講義と演習を通して学ぶ。	
4	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント	アセスメントシートの作り方について②	生活行為アセスメントシートの作成を、演習を通して学ぶ。	
5	生活行為向上マネジメントの目標設定	合意目標の設定方法について	アセスメント結果から具体的な目標を立案することが出来る。	
6	生活行為向上マネジメントの工程分析	生活行為工程分析について	目標となる生活行為について工程分析を行う事が出来る様になる。	
7	生活行為向上マネジメントのプログラム立案	プログラムの立案について①	工程分析を踏まえて、多職種を交えた包括的なプログラムを立案できる。	
8	生活行為向上マネジメントのプログラム立案	プログラムの立案について②	工程分析を踏まえて、多職種を交えた包括的なプログラムを立案できる。	
9	生活行為向上マネジメントの立案プログラムの発表	立案したプログラムのグループ発表	作成したプログラムを他者に分かりやすく説明できる。多様な視点があることを理解できる。	
10	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクル	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクルとツール使用法のまとめ①	これまで検討したプランの発表や質疑を通して、インテークからプログラム立案、次の課題や取り組みに向けての流れを理解する。	
11	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクル	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクルとツール使用法のまとめ②	これまで検討したプランの発表や質疑を通して、インテークからプログラム立案、次の課題や取り組みに向けての流れを理解する。	

12	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
13	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
14	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
15	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例	生活行為向上マネジメントの活用例やその効果について理解することができる。	
<b>評価方法</b>		筆記試験(100%)		
<b>課題に対するフィードバック</b>		提出された課題（シート）に対して良い点と修正が必要な点について解説する。		
<b>教科図書</b>		配布資料		
<b>参考図書</b>		日本作業療法士協会編・著『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版』医歯薬出版、2020年		
<b>学習の準備</b>		1. 予習：作業療法概論、作業療法評価学などの専門科目について資料等を見直して講義に望むこと（60分） 2. 復習：講義の内容の復習、および課題に対するグループワークを行い理解を深めること（120分）		
<b>オフィスアワー</b>		講義の前後。火曜日と木曜日の16時10分～17時。その他、在室時はいつでも可。		
<b>担当教員欄に※印を附した教員の実務経験</b>				